

学 科	作業療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	検査測定実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	135 (3) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部3年	学期及び曜時限	後期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	樋口 舞				
実務経験と その関連資格	作業療法士として回復期の身体障害領域に従事。 心身機能・活動・参加・環境に対する各種評価・作業療法を実施。 その後、放課後等デイサービス、小児・成人の訪問リハビリを通し、生活期のリハビリに関わる。 生活行為向上マネジメント(MTDLP)基礎研修修了。				
《授業科目における学習内容》 1)人間の個別化を大切にし、豊かな感性と品性を養う。 2)対象者へ検査測定を手順に従って行える。 3)対象者への検査測定の実施について円滑に説明ができる。					
《成績評価の方法と基準》 ・実習地評価：(情意領域) ・学内評価：(臨床技術領域、臨床思考領域)					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 各実習施設で指示された教材。					
《授業外における学習方法》 対象者に実施する前に準備をして臨む。 検査測定の実施において、疑問に思った点や分からないことについて、その場での質問や実習課題を通じて解決・理解をする。					
《履修に当たっての留意点》 臨床で出来るかぎり多くの対象者に触れ、検査測定の技術向上に取り組んでください。					
実習プログラム					
実習期間 時間数	2025年 9月29日～10月 4日、(学外実習:1日あたり約8時間) 2025年 10月 6日～10月10日、(学内実習:実習セミナー) 2025年 12月8日～12月13日、(学外実習:1日あたり約8時間) 2025年 12月15日～12月19日、(学内実習:実習セミナー) 合計 135時間				
実習の目的	1)ノーマライゼーションの理念を十分に体得し、人間の基本的人権を尊重して仕事出来る作業療法士を養成する。 2)周囲の支援を受けながらも対象者なりの自立を目指し、生きがいを持って人間らしく満足した生活が送れるように最大限の自立を支援出来る作業療法士を養成する。 3)障害ばかりに目を向けるのではなく、健康科学の重要性を真に理解しその予防に貢献出来る作業療法士を養成する。 4)地域生活を阻害する環境・活動制限・参加制約・機能障害について考え、改善できる作業療法士を養成する。 5)地域生活の維持へつながる作業療法の目的を考え、実践できる作業療法士を養成する。				
実習の内容	作業療法臨床実習の過程、また各過程における指導内容を「基本的態度」「臨床技能」「臨床思考過程」に分け、それらの項目を、見学―模倣―実施の教育課程の流れで指導をうける。 見学:学生が臨床実習指導者の行う作業療法を解説を受けながら観察すること 模倣:学生が臨床実習指導者の行う作業療法を指導を受けながら実際に行うこと 実践:学生が臨床実習指導者の行う作業療法を監督の下、主体的に実際に行うこと 『生活行為聞き取りシート』を用いた対象者様の『目標とする生活行為の聞き取り、もしくは情報収集』 学校への提出課題 1)実習スケジュール、2)毎日の行動記録、3)施設概要、4)リハビリテーション関連部門の見学のまとめ 5)作業療法部門のまとめ、6)その他の記録、7)実習を終えての感想・反省レポート 実習前に客観的応用能力評価試験(OSCE)を実施。接遇・リスク管理について学ぶ 実習後には実習発表会を行い、各自の実習での経験を発表する。また、発表前には発表レジュメを作成する。				